

小学校第3学年 総合的な学習の時間

テーマ 「大好き♡黒潮町」

単元名 「みんな笑顔の町 CM 作成プロジェクト」 （全37時間）

1 単元構想

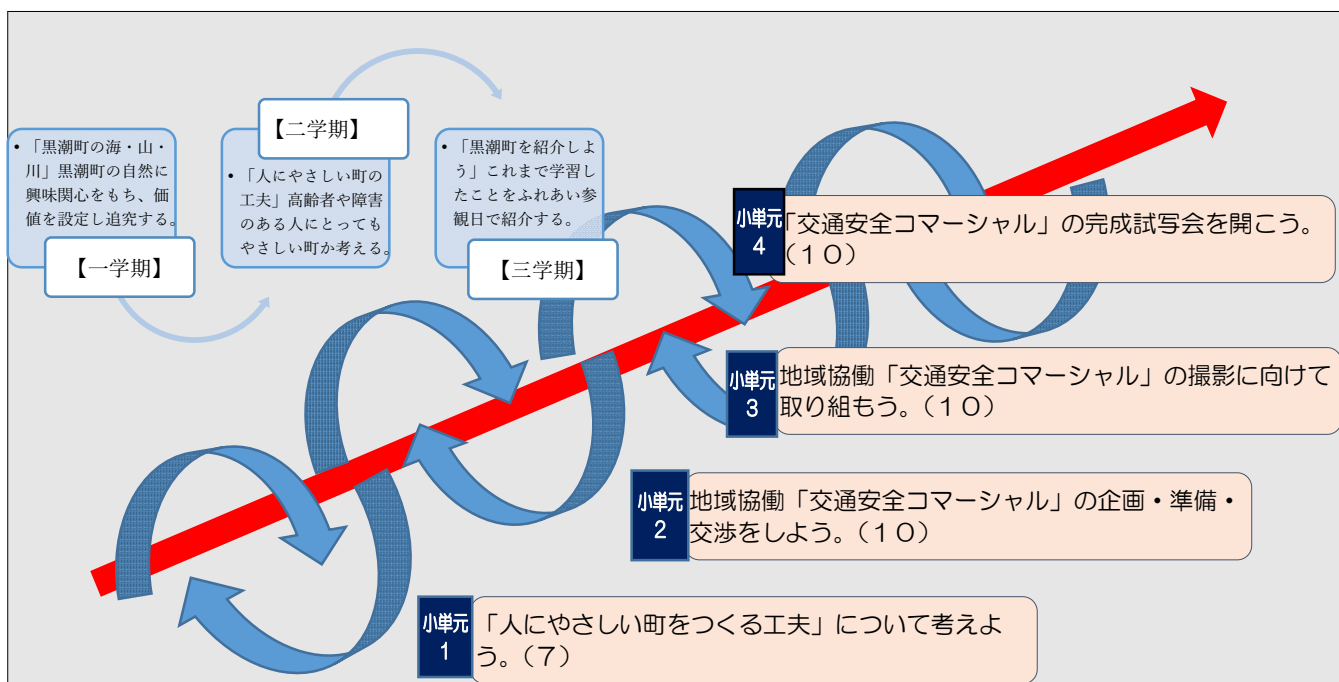
本単元では、全体計画に定めた探究活動を「人にやさしい町にするために町づくりの一員として活動する」ことを踏まえて構成した単元である。

本校のある黒潮町は2012年3月に内閣府から出された南海トラフ巨大地震による震度分布・津波高によると最大津波高が34.4m（全国一）という発表だった。本校は、海岸から約1km付近に位置しており、在籍する児童の多くは津波浸水想定区域から通学しており、通学路の大半は浸水区域である。地域は、地震や大雨による土砂災害の危険区域にも指定されている。交通面からも、高知県中央から西部の幹線道路国道56号線が学区を東西に通っており、登下校中の交通量もかなり多く、高齢者の死亡事故も過去数件発生している。

自然災害に幾度か見舞われながらも、この町には、災害から互いの命を守る知恵や工夫、そして互いに助け合って生きてきた人々のコミュニティーがある。黒潮町総合戦略にある防災に関する基本的な考え方に『あきらめる』からは何も生まれない。それよりも過去幾度となく繰り返されてきた南海地震の甚大な被害からも、決してあきらめることなく「ふるさと」を再生してきた先人の経験に学ぶ。」とある。

防災・安全教育を災害・事故に関する訓練や知識の習得で終始せず、自ら地域社会に貢献する態度を育てることが重要だと考える。そのためには、地域に出向き人に出会い、そこで生まれた防災・安全等に関する疑問を追究する児童の思考・発見から次の行動へとつなげる過程を大切に扱いたい。

本単元は、誰にとっても住みやすい町になるために、これまで幾度の災害からもふるさとを再生させてきた地域の高齢者との交流を通し、地域の課題を明らかにしていく。その中で交通安全についての課題を取り上げて実態を調査していく。校外学習や地域での聞き取り等の学習を通して、児童は高齢者の立場で道路環境の課題に気づくはずである。いつもお世話になっているおじいちゃん、おばあちゃんの不安を少しでも解消したいという気持ちが高まり、どうしたら「人にやさしい町」になるのか、自分たちにできることは何かを学習課題としてその解決に向けて取り組んでいくと考えこの単元を設定した。



2 単元の目標

「交通安全を呼びかけるコマーシャル」を地域住民と一緒に作成する活動を通して、私たちは地域の「人・もの・こと」に守られて生活していることに気づくと共に、自らも地域社会の一員として、地域社会を大切に貢献しようと思う心情や態度を育てる。

3 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>①高齢者施設やあったかふれあいセンター等を訪問し、地域の高齢者の困り感を聞き、地域の見守り隊の皆さんと協働してCMを作成することを理解している。</p> <p>②日常的に気持ちの良い挨拶をしたり、わかりやすい話し方をしたりして高齢者に親切に関わっている。</p> <p>③地域の安全・安心を守る「人・もの・こと」について情報を整理できる。</p>	<p>①高齢者施設等でインタビューしたことや、これまで地域の高齢者との交流の際に聞いたことから、交通安全を守るにはどうしたらいいのか課題を設定し具体的に考えている。</p> <p>②複数の情報を整理したり関係づけたりしながら交通安全CM作成に向けて考えている。</p> <p>③交通安全CMの内容が伝わりやすい内容になっているか考え表現している。</p>	<p>①地域の見守り隊や高齢者と協働してCMを作成し課題解決を図ろうと取り組んでいる。</p> <p>②CMを作成後は、多くの人に見てもらい交通安全を呼びかけようと新たな課題を設定し取り組もうとしている。</p>

4 指導と評価の計画（37時間）

小単元名	学習活動（◆）・児童の思考☞	知	思	態	評価方法
1 「人にやさしい町」について考えアイデアを出し合おう。 (7)	<p>◆地域の高齢者施設を訪問し、交通安全面で困っている点等について取材する。その中で、国道56号線沿いでは高齢者の死亡事故等もあり、普段から不安に思っていることもあることから、地域の交通安全を守る課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・おもちゃ祭りやいろいろな行事に来てくれる、おじいちゃんやおばあちゃんが住みやすい町にしたいね。 ・おばあちゃんといくと安心する。おばあちゃんにとっても安心できる町なのかな。 ・前に学校前の国道で高齢者の死亡事故があったそうだよ。 ・交通安全面で困っていることは何かインタビューしてみよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・ぼくのおばあちゃんも、体が思うように動かないから横断歩道が渡りにくいって言ってたよ。体が重いってどんなかんじなのかな？ ・おじいちゃんやおばあちゃんの気持ちになることはできないかな。</p> </div>		①		発言 ワークシート

	<p>◆高齢者の困っていることを実感するために、高齢者疑似体験に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目が見えにくいと信号の色もわかりにくいね。 ・横断歩道を渡るのに時間がかかりそう。だって体が重くて思うように体が動かないもん。 ・耳も聞こえにくいよ。車の音にも気づかないんじゃないかな。 ・もし、おばあちゃんが道路を渡ろうとしていたら、どうしたらいいかな。 ・おじいちゃんやおばあちゃんに会って、どんなことに困っているのかインタビューしてみよう。 				行動観察
	<p>◆地域の高齢者へアンケートの協力を願い、情報を収集する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私のおばあちゃんにも聞いてみよう。 ・敬老会のお手紙にアンケートを入れられないかな？ ・地域のふれあいセンターに行ってみようよ。 ・車が多くて怖いつて話していたね。みんなに交通ルールを守ること呼びかけるにはどうしたらいいかな。 	②			アンケート
<p>2 地域協働「みんな笑顔の町☆交通安全コマーシャル」を作る準備をしよう。</p> <p>(10)</p>	<p>◆交通安全に関する課題が多いことから、地域の交通安全を守るためのコマーシャルを作成することを課題として設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全を呼びかけるには、コマーシャルがいいんじゃないかな。 ・コマーシャルだと多くの人に見てもらえるよ。 ・商品を宣伝するだけじゃないコマーシャルもあるよね。 ・作ってみたいな。 ・テレビでコマーシャルを見ることはあるけど、コマーシャルってどうやって作っているのかな？ <p>◆コマーシャルの作り方について、図書館やインターネットで調べたり、外部講師から学んだりとグループで学ぶ計画をたてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビでコマーシャルを見ることはあるけど、コマーシャルってどうやって作っているのかな？ ・図書館で調べてみようよ。 ・コマーシャルの役割がわかったね。でも作るのは難しそうだな。 ・誰か教えてくれる人はいないかな。 <p>◆絵コンテや脚本、キャスト、撮影等、コマーシャルづくりに必要なことを、南郷子ども見守り隊に協力してもらおうよう依頼する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守り隊の皆さんにも協力をお願いします。 ・見守り隊の中に IWK ケーブルテレビで仕事をしている人がいるよ。 ・話を聞いてみたいね。 ・出演してもらえる人を探そう。 <p>◆コマーシャルのシナリオを整理し、交通安全を訴える内容になっているか確認し改善する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この場面はもう少し～したほうがいいね。 ・ナレーションの台詞はこれでいいかな。 ・もう一度、見守り隊の（撮影でお世話になった）〇〇さんに聞いてみよう。 <p style="text-align: right;">【具体的事例】</p>	①	①	②	<p>発言 行動観察</p> <p>メモ ノート</p>

<p>3 地域協働「交通安全コマーシャル」に挑戦しよう。 (10)</p>	<p>◆地域でシナリオに沿って撮影に取り組む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・うまく演じられたかな。 ・ナレーションはもっとはっきり言ったほうがいいよ。 ・驚く表情はどうしたらいいかな。 ・もう一度撮りなおそうよ。 </div> <p style="text-align: right;">【具体的事例】</p> <p>◆撮影された映像を見直し改善点を話し合う。 ◆撮影されたコマーシャルをどこで放送するのか、どのように交渉するのか新たな課題に取り組む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・コマーシャルが完成したね。うれしいな。 ・このコマーシャルをどこで放送してもらえばいいかな。 ・役場の人に相談してみよう。 ・砂浜美術館の人にも相談したいね。 </div>	②		<p>① 行動観察</p> <p>振り返りシート</p> <p>②</p>
<p>4 「交通安全コマーシャル」完成試写会を開こう。 (10)</p>	<p>◆交通安全のコマーシャルを作成したことが、地域の高齢者がどのように感じたのか調査するために試写会の案内文書を作成し配布する。</p> <p>◆これまでの活動を通して自分の変容を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなに喜んでもらえてよかったね。 ・交通安全のために毎朝見守ってくれる見守り隊の人の思いに気づくことができよかった。ぼくも大人になったら、地域の安全を見守ることができるかっこいい大人になりたいな。 </div>	③	②	<p>行動観察 発言 振り返りシート</p>

本単元では、中心的な活動を、地域の交通安全に向けてコマーシャルを作成する活動として、以下に示す小単元で構成すると共に、評価場面については、小単元ごとの学習活動場面において、資質・能力を発揮する児童の姿を想定して次のような意図をもって設定した。

小単元1は、単元の導入において日頃お世話になっている高齢者の方の役に立てることはないか課題を設定する。児童にとって身近な存在のおじいちゃん、おばあちゃんのために何かしたいという気持ちを引き出して課題を設定・展開する導入場面であることから、【思考・判断・表現①】を設定した。

小単元2は、高齢者施設の訪問や手紙交換で高齢者の皆さんに普段の生活面で困っていることを聞き取る、国語科で学習した取材メモを作成する知識や技能を活用する場面であることから【知識・技能①】を設定し評価する。また、取材した情報を収集し次の課題「交通安全コマーシャル作成」へと展開する場面でもあることから【思考・判断・表現①②】の評価規準も設定した。

小単元3では、実際にコマーシャルを撮影し改善点は撮りなおす等、完成に向けて協働して取り組む場面であることから【主体的に学習に取り組む態度①】を評価規準に設定した。この場面では、コマーシャルに出演してくださる地域の見守り隊の皆さんや、高齢者の方に適切に関わる児童の姿を見とる適切な場面でもあることから【知識・技能②】も評価規準として設定する。

小単元4では、完成したコマーシャルをどのような方法で公開し視聴してもらうか新たな課題に取り組み解決を図る場面である。また単元の終末として児童一人一人が課題に対して自らの学びについて振り返り、自分たちの生活を守る地域の見守り隊を始め、「人・もの・こと」の存在に気づき、自らも人の役に立つ大人になりたいと気持ちの芽生えを評価する場面でもあることから、【主体的に学習に取り組む態度②】【知識・技能③】を評価規準として設定した。

5 具体的事例

(1) 小単元2「地域協働『みんな笑顔の町☆交通安全コマーシャル』を作る準備をしよう。」

小単元1で高齢者に取材して、交通安全に関して普段高齢者が不安に思っていることは次のように整理できた。

- 後ろから来る車がこわかった。
- (車を運転していて) 新しい道がよくわからない。
- 自転車が急に飛び出てきてこわかった。
- 自転車も人も右左をきちんとたしかめてほしい。
- 自転車はスピードをださないで。
- 自転車は道の真ん中を通らないでほしい。



自分たちも自転車の乗り方等に気を付けると共に、交通ルールを守るコマーシャルを作成し高齢者の不安に応えようと児童の意見はまとまった。まずは、学校図書館や町立図書館等でコマーシャルに関する資料を調べ、コマーシャルの映像を見たりする等して、コマーシャルを作成するために必要な情報を整理していった。

次に、地元のケーブルテレビで映像作成の仕事をしている見守り隊の方に作成の基本を指導していただいた。絵コンテ作成までの行程は次の通りである。

- ①児童が交通安全面で危険だと思う場所を確認する。
- ②危険箇所でのストーリーを作成する。
- ③ストーリーにあうキャストを決める。
- ④キャストやナレーターの台詞を考える。
- ⑤ストーリーに沿って絵コンテを作成する。



【交通安全守ろう CM ショートストーリー】

①弘野の坂道

とうなくんが自転車のスピードを出したまま下りてくる。

通行人にぶつかりそうになる。

スクールガードリーダー：「あぶない！」

とうなくんは急ブレーキをかけぶつからずにすむ。

通行人はびっくりした顔。

とうな：「おばさん、ごめんなさい！」

おばあちゃん：「いいよ。でもあぶないから次からは気をつけようね。」

とうな「はい。」

とうなくんは、正しい自転車の乗り方で坂道から下りてくる。

(自転車をついて歩いて下りてくる。)

②弘野下の横断歩道

こたろうくんが信号は押したけれど、左右の確認をしないで渡ろうとする。

スクールガードリーダー：「あぶないよ！右左ちゃんと見て渡ろうね。」

こたろうくんはすぐに気が付き、もう一度左右を確認してわたる。

③ぶち上の交差点

ののちゃん、あおいちゃんが話しながら歩いている。

横の道からスピードを出した自転車が出てくる。

自転車に乗っているのは、じゅんたくん。

話している二人にぶつかりそうになる。

見ていた、とあくん。

とあ：「あぶない！」

見守り隊：「交差点では左右確認してわたろうね。」

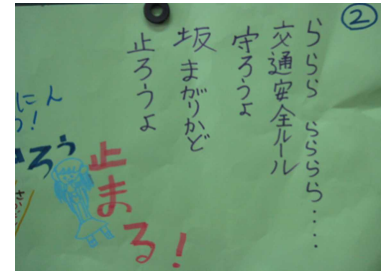
三人：「はい。今度から気を付けます。」

【正しい自転車の乗り方・道の歩き方シーン】

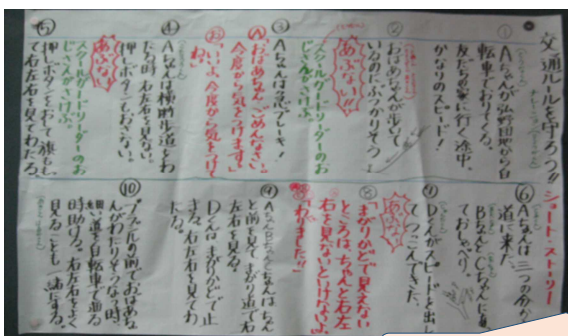
ののちゃん、あおいちちゃん、交差点に来たら左右を確認して渡る。
じゅんたくん、自転車で交差点にさしかかった時は、左右を確認する。

④ブラジルの横断歩道

おばあちゃんが海岸の方に行こうとしている。
あき：「おばあちゃん、車が来るからあぶないよ。ぼくも一緒にわたるからね。」
二人で左右を確認し、車が来ていないのを見て右手をあげて渡る。
おばあちゃん：「ありがとう。いい子だね。」
あき：「みんなで交通ルール守ろうね。」



ショートストーリーが完成すると、自然と児童の中から「CMには歌が必要」という意見が出され、コマーシャルソングにも挑戦する。課題解決に向けての過程で、どんどんと児童からアイデアが出され主体的に学ぶ姿が見られ始める。



ショートストーリー (左) 絵コンテ (右)

(2) 小単元3「地域協働「交通安全コマーシャル」に挑戦しよう。」

台詞の練習を繰り返し、現地での撮影に臨む。事前に交渉していた地域の高齢者の方や見守り隊の方に参加していただき撮影は順調に進んだ。

撮影中、高齢者への声掛けや気遣う声なども聞かれ、人にやさしい町づくりのために一番必要なことは、やさしい声かけができる人間関係だということにも気づき始めたようである。

撮影は半日で終了したが、出来上がった映像を確認し、工夫・改善点を考えた。作り手の意図が伝わるようにするにはどうしたらいいのか、計画→実行→改善→実行を繰り返しコマーシャル完成に向けて取り組んでいった。



地域の皆さんや見守り隊・上川口駐在さんにも出演者として撮影に協力していただきました！

地域協働交通安全コマーシャル制作

6 学習後の成果と課題

単元の最後に、単元を通して自分の変化を振り返りプレゼンテーションにまとめ発表する場面を設定した。児童が報告の中で「ぼくたちはこのCMをたくさんの人に見てもらいたいです。放送してもらってみんなに見てもらったら、地域のおじいちゃん、おばあちゃんたちがこまっていることに気づいて、みんなが交通安全に気をつけるようになるとと思います。IWK ケーブルテレビ、ビオス大方情報館、黒潮町役場のロビーなどで流してもらいたいと考えています。」と発表していた。人にやさしい町づくりの一員として活動した自信が見て取れる。また探究的な学びを続けてきたからこそ、新たな課題を自ら発見し解決しようとする態度も育ってきているのではないだろうか。コマーシャルづくりの一連の活動やコマーシャルソングはクリアファイル（右下）になったが、今後このファイルを学校近くの道の駅でドライバーに配布しながら交通安全を呼びかけようとのアイデアも生まれている。

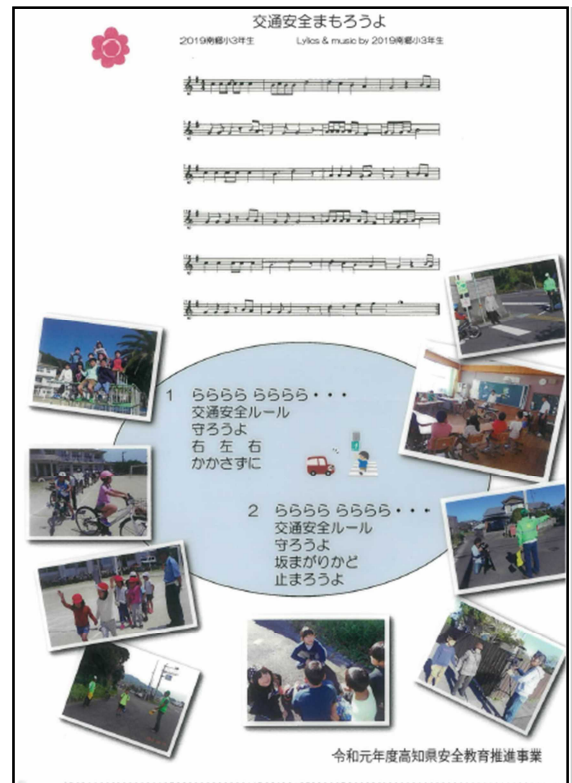
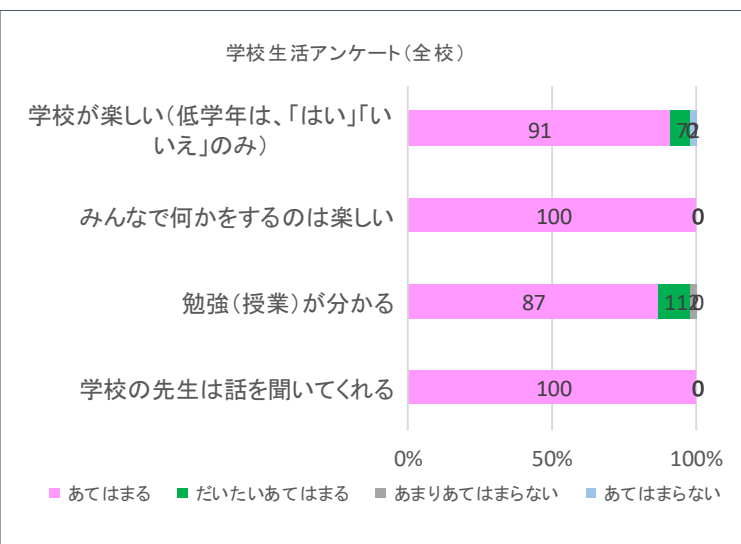
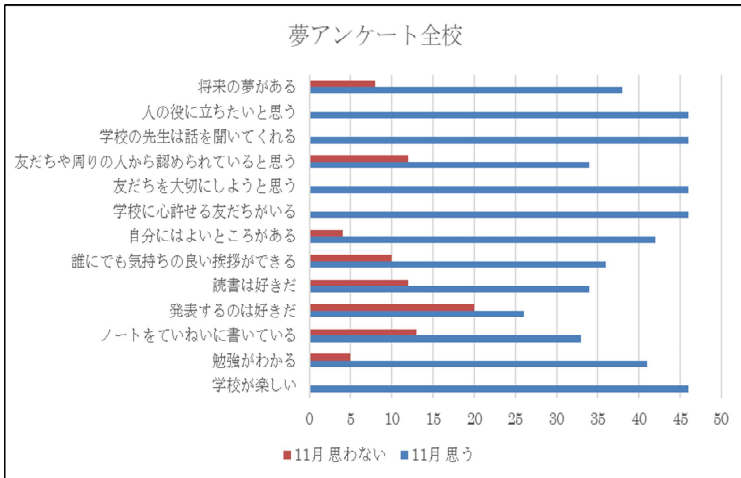


本単元で、高齢者の思いに寄り添い、みんなが幸せにらせる町になるように考え行動したことで、自分も周りの人から支えられていることを実感し、やさしい町を目指して自分の行動を振り返り改善しようと取り組んだことも評価できる。

学校評価アンケート（夢アンケート）や学校生活アンケートの結果からも、「人の役に立ちたいと思う 100%」「学校が楽しい 100%」「友だちを大切にしようと思う 100%」「学校に心を許せるともだちがいる 100%」「みんなで何かをするのは楽しい 100%」との結果を得ることができた。児童が主体的・探究的に学ぶ学習を通して、友だちとのかかわりが増え良好な人間関係が形成されたこと、また社会への貢献意識が高まったことが伺われる。

課題としては、交通安全意識調査の結果によると、全員の交通マナーに対する意識が向上したとはいえない。今後、各教科（特に道徳科）や学級活動と関連付けた計画・指導と個々の評価、学校全体の評価の在り方を研究する必要がある。

課題としては、交通安全意識調査の結果によると、全員の交通マナーに対する意識が向上したとはいえない。今後、各教科（特に道徳科）や学級活動と関連付けた計画・指導と個々の評価、学校全体の評価の在り方を研究する必要がある。



令和元年度高知県安全教育推進事業
クリアファイル